

サロンあべの

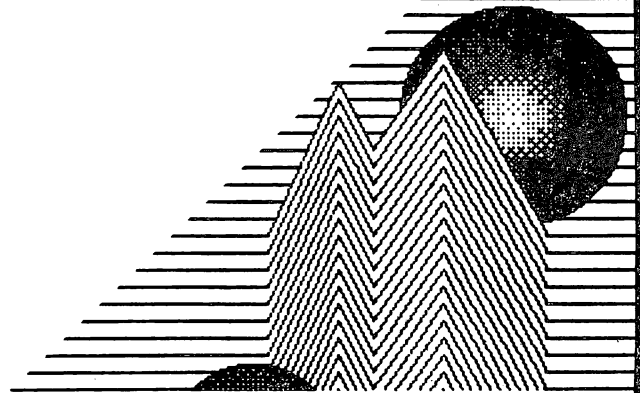
Vol.110

お知恵拝借

◎住まいの

サロン・あべの7月の出会い

95年7月15日(土)午後1時
育徳コミュニティセンター2階
研修室において、サロン・あべ
の7月の出会いを開催した。
テーマは、「住まいのお知恵



拝借」。4月の出会いでは赤谷氏から住居についてのお話を伺ったが、それを受けて今回は、住まいの問題を中心に、参加者自身の工夫あるいは悩みといったものを聞かせていただいた。その一部を紹介すると…。

「一般のマンションでは、部屋の天井を高く(広く)見せるために、床面を下げて廊下との間に段差を作っている。バリアフリーの考えに逆行するものだが、今はまだこちらの方が主流のようだ。」

「トイレに手すりを付けたいが、壁の強度が心配だし、狭くなるのも困る。」

「手すり一本でも、太さや材質など様々である。ビニールでコーティングし滑りにくくしたものは、浴室に便利である。」

「使い勝手の言い設備(道具)にこだわって、探しまくった。」

「良いものにこだわれば、お金がかかる。公的な助成をもっと充実・拡大してほしい。」

「材料費だけ負担すれば、その人に合った道具を作ってくれる『自助具の部屋』がある。」

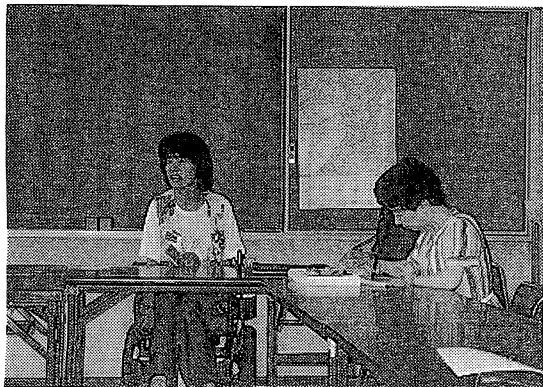
「22年前に建てられた公営住宅の5階に住んでいるが、階段

に手すりがなくて困っている。浴室やトイレも使いにくい、我慢している。」

「既存の設備に自分を合わせて、『なんとか我慢しながら、生活している』障害者が多いのではないか。」

「トイレとお風呂が、やはりネックになってくる。」

「なるべくたくさんの実例を見て、研究すべき。」



住まいのお知恵拝借
司会*山本さん(左)

石田邸「平成の大修理」
石田さん宅の改造例をアルバムの写真で拝見。

「古い家なので、手を入れだすと切りがなく、平成の大修理となった。費用の点では少々目をつぶっても、妥協せずに良いものを作ろうと考えた。結果として、施工した工務店がサンプルとして写真を撮るほどのものができた。」

山本さんの一人住まい

「マンション入り口の段差は、自費でスロープを設置。ドアが重かったのでクローザーを外したが、開けると戻って来ないので、ドアの内側にロープを張り、それを中から引き寄せて閉めている。浴槽の高さも解消し、入るときと出るときで使う手すりも違うので、それに合わせて、4本の手すりを付けている。そのほか、福祉機器ではない市販の道具を流用、自助に役立っている。」

参加者それぞれに、毎日の生活の中で何らかの工夫をされているはずである。しかし、障害も人それぞれであり、そのままあてはめることはできない。また、それを日常的に使っている人にとっては、ただの道具でし

かない。必要なのは、不便な点を我慢するのではなく、どうすれば便利になるのかを考え、どこかに便利な道具がないものか、常に探求心をもつことである。

参加者16名。司会、山本篤江。
(まとめ、上平幸雄)

何回か入院した病院のふろで使っていた超大型のふろいす。

長ふろの人や、立ったり座ったりがしづらい人、また、入浴を手伝ってもらう人には、本格派のいす式のこれは快適でした。

座面はプラスチック製で、脚は細いアルミニウムの4本の脚でできている。この脚は2.5cm刻みで37.5~47.5cmの範囲で高さ調節ができるものでした。これには背もたれがありませんでしたが、他に背もたれ付きのや、おしりの洗浄がしやすいように座面がU字型にくり抜いたものもあると聞きました。

ふろいすに限らず、「探していたんはこれや、これでないとあかん」品物に出会った快感はまた格別じゃで。(I)

圭系敵 快適

作る つくる 創る

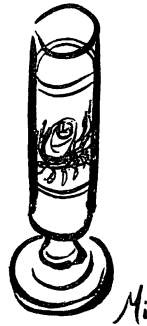
河合恵子

ガラスの魅力

暑い夏、氷の浮かんだ透明なグラスの飲物や、ガラスの器に盛りられた素麺に青いもみじの葉が添えられていたりするのは、いかにも涼しげ。

光を通して様々にその表情を変え
るガラス。この美しく、しかも毀れ
やすい繊細なガラスが、珪砂とい
う砂から出来ていることというのはど
も不思議。古代フェニキアの商人が
ソーダ塊を煮炊き用の台に使ったと
き、砂と混じりあってガラスができ
たといえます。今日見られる最古の
ガラスは紀元前十六―十五世紀メソ
ポタミアのものとか。その後、エジ
プトでは色ガラスの香油瓶などが作
られ、ローマでは吹きガラスの技法

が開発され、ササン朝ペルシャ時代
にはカットの技法が花開き、それは
正倉院に伝えられました。日本では
薄い色ガラスが特徴の長崎のビード



ロが有名ですが、これは江戸時代。
幕末に作られた江戸切子・薩摩切子
の切子はカット・グラスのことで当
時のヨーロッパの技術に照らしても
最高度に完成されたものだそうです

24

ところでガラスは水晶のように無
色・透明なクリスタル・ガラスが魅
力的ですが、先日、六本木の麻布美
術工芸館の展覧会で見た不透明ガラ
スは思わず、目を奪われる美しさ。
それは金属酸化物を蒸着した虹彩ガ
ラスでアール・ヌーボ―最盛期、一
九〇〇年のパリ万博でグランプリを
受賞した、南西ボヘミアのレッツ工
房の作品。大胆で明快なフォルム。
そして幻想的に輝く不透明のブルー
やグリーン、ローズなどのガラス。
これらは軽井沢と伊豆高原のボヘミ
アンガラス博物館に收藏されていま
す。また清里ではドーム、諏訪では
エミール・ガレやルネ・ラリックな
ど、アール・ヌーボ―、アール・デ
コの有名な作家の作品が見られます。

連載 二二二

高齢者と在宅介護

井元 真澄
いもと ますみ

五 震災被災地域の住民生活実態

～被災地における実態調査より～(一)

今回より、新しい内容に変わります。

本連載のテーマである、「高齢者と在宅介護」からは少し離れてしましますが、震災に関する内容を取扱うことにします。

震災のことは、思い出しても身震いします。私は、食器の割れる音で目が覚め、その後経験したことの無い振動にただただじっとするしかありませんでした。あとには、割れた食器が散乱した台所と、本や資料で埋め尽くされた仕事部屋が無残な姿をみせていました。しかし、これはまだましな方であって、本当に大変なことが起こったのだということとは、時間とともにわかってきました。

「何かしなければならぬ」と思ったときには、情けないことに、インフルエンザにか

かっていました(今年の冬から春にかけては、インフルエンザに三回かかるといふフルコースを体験しました)。風邪がましになったら、ボランティアとして活動しよう、と思っていたときに、被災地の実態調査のお話をいただきました。その調査の趣旨が、単なる研究目的ではなく、県からの委託で、復興にむけての施策の基礎資料にするというものでしたので、間接的ではあるけれども被災者の方々

のお役にたてることになるかと思い、参加させていただきました。

ただし、調査の対象が、高齢者や障害者といった方々に焦点をあてたものではないため、これを読んでいらっしゃる方には、若干物足りないかもしれません。全体像をみるということで、ご了承いただきたく、お願い申し上げます。

《はじめに》

一月十七日に起こった阪神・淡路大震災が、住民に多大な被害をもたらしたことは周知の通りです。住民総被災者ともいふべき状況の中、その生活実態を把握することは困難であり、様々な団体が、それぞれの視点から調査を行っていたと考えられます。そのような中で、被災者の生活実態とその変化、今後に向



けた要望などを把握し、コミュニティの再建のための基礎資料とする実態調査を行いました。調査対象は、当時あまり把握されていなかった、在宅で生活している人々と、入居間もない仮設住宅生活者です。

本稿では、この実態調査の一部について紹介してまいります。

なお、調査の詳細は、(財)兵庫県長寿社会研究機構・長寿社会研究所、「震災被災世帯状況に関する調査研究報告書」(一九九五)にまとめられています(近刊)。

晩夏

耐えがたい暑さに飽かれてきた夏ではあるが、その暑さが衰えて、日の光、蟬の声、空の色、水の感触に、忍びよる秋を感じるようになる。何かしらもの寂しいもの。なにがなんでも「かるた」です。

解得 心を導く 二五五

— 阪神大震災 —
こんなボランティア活動もありました

● 吉原和郎

テレビの画面に映し出される生々しい被災地の模様を見ながら、大変なことになってきたなあ、私も何か行動しなければいけないかなあ、と漠然と考えていました。

阪神電車が青木駅まで復旧したことを知って、とりあえず現場まで行こうと思いついて、鍼灸用具と少しの救援物資をもって出かけたのが震災後十日目のことでした。

震災地に行く前までは、日曜日だけ、鍼灸治療のボランティアに行こうと考えていたのですが、被災地の状況をつぶさに見て、考え方が変わりました。つまり、当分の間毎日被災地に行くことにする。又、鍼灸はやめて、衣服を脱がず、被災者のその場で治療ができる「操体法」による治療を行うことにしました。

次の日、西宮市役所に行き、操体法による治療ボランティアをしたい旨を告げたところ、今必要なボランティアは救援物資を避難所へ届ける人々ですと言われ、その日

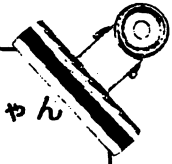
から、全国から送られてくる救援物資の整理作業をするハメになりました。

それから一週間作業するうちに、この作業のボランティアが大幅に増加してきたので、この作業から手を引き、治療ボランティアとしての活動を始めました。つまり、ボランティア登録をせずに、自分の判断で一人で任意にボランティア活動を始めたわけです。

最初の頃は、避難所を徒歩で探して、その避難所で治療していたので、活動が遅々として進みませんでした。そこでボランティア本部に行き、事情を話して、避難所の一覧表を入手し、無料で貸してくれる自転車を手に入れることができました。その結果、翌日からは、より早くより多くの避難所へ行くことが出来るようになりました。ただ、自転車での移動は、昼間はよいのですが、夜間はたいへんでした。道路は、車道歩道を問わず、隆起したり陥没したり

しているところがいたるところにあり、危険なことこのうえなかったからです。
被災地の医療機関は壊滅状態、もちろんほねつぎ、鍼灸といった治療所もダメでし

たから、これらの医療機関にかかっていた多くの人々、又、ガレキの下から脱出するときに足腰を痛めた人々が、痛みをがまんして耐えていることを考え、できるだけ早



「キシヨイ」なる言葉

姉ちゃん

みなさん、「キシヨイ」なる言葉を御存知でしょうか。
現在、私が世界一俗悪だと思

おもしろい

言う言葉です。和泉地方の方言なのか、若者言葉なのか、子ども達が使うのです。
「気色悪い」の省略語なのですが用途が広い。

「気持が悪い・腹が立つ・気に入らない」等々を表すのですが、何かで注意したら必ず返ってくる。
「キシヨイ。あっち行けよ」

この言葉。用事を言いつけられても買ってくれとねだった後に断られて



も、自分の都合が悪くなると「キシヨイわ」

が返ってくる。

その昔、すべてを「カワイイ」

で表現し、日本語文化の乱れを指摘された世代の私ですが、

「キシヨイ」

よりはマシだったと思うのは、おばさんに近付いた証でしょうか。

田 淵 美登利

く避難所を訪問しようと思い、三月の末頃までの約一ヵ月間は、毎日、休日を返上して被災地へいき、操体法による治療を行いました。又、全国から集まってきているボランティアに対して、操体法による治療を行いました。それは、奈良の生駒から通う者にとっては、時間との戦いでした。従って、帰宅時間が十時を過ぎることがよくありました。そのため、無理がたたつて、一時、体調を崩したことがありました。
西宮市から芦屋市、そして神戸市東灘区へと足を東から西へのはしていきましたが、ここまでが限度でした。

最初に治療した人を今でも覚えています。五十代半ばの女性で、目は落ち込み、体も相当疲れているようでした。本人の希望ではなく、他の人からせひみてやってほしいという申し出があったからです。部屋から出てくるときも、ヨタヨタしながら、やつのことで私の前のイスに座ったのでした。横になることが苦痛ということなので、イスに座ったままの状態でした。最初は疑心暗鬼だったその人も、首が廻るようになり、足も楽になってきた段階で

こちらの問いかけに、うなずくだけだったのが、少し話をするようになり、一通りの治療が終わったとき「はぁー楽になった。これで生きていく望みが出てきた」と小声でつぶやかれたとき、何とも言えない嬉しさがこみ上げてきました。

★忘れられること

助けるとは、もはや助けられる必要がないように導くことだ。自分が相手にとって不必要な存在になることが、



今回のボランティア活動は、現場を直接踏んだ実体験そのものでしたから、様々な教訓を学ぶことができました。

四月末日で操体法による治療ボランティアはやめて、五月からは、仮説住宅の支援活動を継続中です。

最後に二月初旬から四月末日まで活動した、操体法による治療ボランティアの活動内容の数字を表しておきます。

- 総活動日数 六六日
- 訪問した避難所(延) 三九三個所
- 治療した人数 (延) 四一四人

助ける人の目標になる。必要な存在でなくなれば、忘れられる。忘れられることこそ、助ける人たちの望むことである。

助けを必要としたという思いは、無力感につながる。本当は自分ひとりでできたのだと、相手が後になって思うことができたなら、援助はかなり成功している。その人は自信をもち、こんど困難なことがあっても、だれに頼ることなく自分で解決していこうとするだろう。

逆に、いつまでも自分を助けてくれた人に恩義を感じ、忘れられない人として残っているなら、なにかあったときは、また、その人のことを思いうか

べるに違いない。「あの人さえいてくれたら」と思わせることは、自分自身でやりぬこうとする意志をくじくことになる。助ける人としては、それは失敗なのである。

だから、もっとも私たちを助けてくれた人は、私たちがすっかり忘れてしまった人たちである。私たちは、そのような人の助けなしで充分にやっていると信じている。しかし、それこそは、うまく助けてくれた人たちの配慮の結果なのである。

ほんとうに私たちが助けてくれた人たちは、私たちの記憶に残らないように努めていた。もしも、その人たちのことを覚えていたら、私たちは、自分

の力に気づかず、またその人たちを頼ろうとしたにちがいない。

なんでも自分ひとりできたと思い、助けを受けた人の顔が思いうかばないとき、とても巧みなやりかたで、助けられていた。それに気づいたとき、だれに笑顔をむけてよいのかわからず、晴れわたった空に、ぼっかりとうかぶ雲をみつめる。私を助けてくれた人も、きつとこの雲を見ているに違いないと信じて。

(知)

サロン紙上でおなじみの岡 知史氏のエッセーが、大阪ボランティア協会でまとめられ「ほんの少しの神に近い部分」として発行されました。

これは、「知らされない愛について」に続く二冊目で、ともに好評をいただいています。

イラストは、二冊とも石田美智子さんです。

頒 価 二七〇円

・問合わせ先 ⅡⅢⅥ六六・一〇二八富田

美智子のこんな話

岸 田 美智子

施設障害者のガイドヘルパー適用を巡って

ライフ・ネットワークでは過去5年間、ガイドヘルパー制度の施設障害者への適用を求めてきました。でもこれまでは、大阪府は「ガイドヘルパー制度は在宅障害者の制度だから使えない」「施設には措置費が出ているので施設障害者の外出は施設で介護すべき」と言ってつっぱねてきました。また、府は「国が家と施設の往復や帰宅中の外出にガイドヘルパーを使うことはできると言っている、それぐらいならかまわない」と答えてきましたが、実際には家がなくなっていて施設が自宅になってい

る施設障害者が多く、ほとんど使えない状況でした。

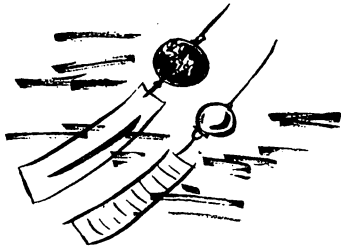
しかし、これまでの私達の強い要求により、昨年12月の府との協議で、「ガイドヘルパー制度を施設障害者に適用しても国から補助が出ないし、措置費で対応すべきとする府庁内の意見もあつて難しいので、施設障害者だけを対象にした別枠のガイドヘルパー制度を作りたい」という方向に進んできました。

ところが、今年の6月に川崎市で施設障害者がガイドヘルパー制度を使えているという記事が障害者団体の通信に掲載され、厚生省に問い合わせたところ「自治体に余力があれば施設障害者もガイドヘルパー制度を使える。派遣費用は国からも在宅障害者と同じように出す」という回答があり、これは今までの府の回答とは明らかに違うものでした。

このことを今年の6月に府に調査させ協議したところ、「今年、国は担当が変わりその担当者は余力があれば派遣可能で、国からも補助を出すと話していた」と答え、更に問いつめると、実は平成5年の段階で既に国が「自治体にゆくゆく余力ができて

くれば派遣可能」と答えていたことも明らかとなりました。そのことを私達に伝えていなかったことや、それがわかっていれば大阪ではガイドヘルパーが進んでいるため別枠の制度を考えなくてよかったですし、施設障害者をもっと早くガイドヘルパーを使えるようにできたのではないかと、府のこれまでの対応のまずさを追求しました。

結局、府は別枠の制度を作るのではなく、この8月に各市町村に通達し、秋から既存のガイドヘルパー制度を施設障害者に適用させることを約束しました。しかし、府は制度の対象を療護施設の身障者だけに限る



うとしている問題もあり、すべての施設障害者が使いやすくなるために制度を柔軟に適用させていくことが必要になっています(障害者を措置した市か、施設のある市かどうかどちらでも実施できるようにするなど)。また、在宅障害者と共通した問題として交通費の問題や、市外への派遣なども課題として残されています。

思い出誘う記事

いつも、△サロン・あべのVを楽しみに拝見しています。

「おもろい 姉ちゃん」の転動話には、かつての私を思い出しました。

また、今回、グループホームに入居された方も、私にとっては、なつかしい方でした。

毎回、忘れそうなものを思い出させる心に響く記事があります。

そんな中でも、知った方が元気に生活していらつしやるのを知るの喜びです。

△サロン・あべのV紙を送っていただき、とても感謝しています。

山根 匡子

お知らせ

サロン・あべの九月の出会い

日時 九月十六日(土) 午後一時〜四時

場所 育徳コミュニティセンター研修室

(阿倍野区阪南町五十五〜二十八)

スロープ、車いすトイレ有り

テーマ 「福祉機器のはなし」

― 自立に役立つ道具とは ―

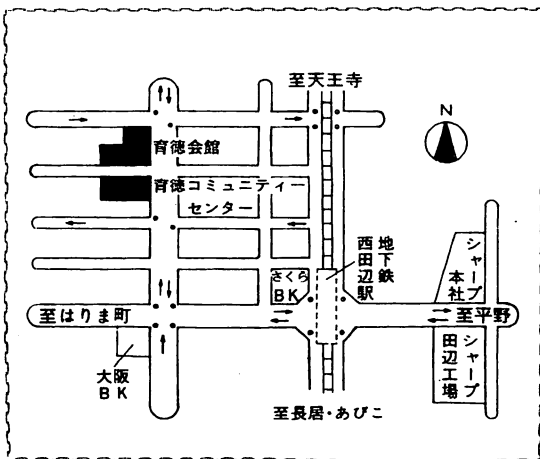
パネラー 株式会社ユータ

代表取締役 上田隆志氏

会費 なし

お申し込み・お問い合わせ先

☎〇六―六九―一〇二八(富田慶子)



羨ましい設備

—— 幸子と幸二 ——

今月のサロン紙(一〇八号)で読んだのですが、阿倍野区にはすばらしい在宅サービスセンターが出来たのですね。

読んでいますと、次から次へとうらやましくなるような設備がなされていて感嘆しています。

これから、このようなセンターが各地区にふえてほしいですね。

和田 保子

シャンソン大好き

毎回のサロン紙、本当にありがとうございます。

いつも見応えのある内容でスタッフの方々の並々ならぬご苦労が伺える様です。

又、六月の出会いで、シャンソン歌手の

ご出席で皆さんが魅了されたとか。本当に素晴らしい会合でございましたね。実は、

私もシャンソンは、大好きでして、私自身も台所に立つと、何となくシャンソンを口

ずさんでいるんですよ。場違いの感があるけれど……

さとう宗幸さんの作曲されたものもあつ

たとか、あの方のコンサートに参加して、

あの方はシャンソンから始まった歌手だと訊いて驚きました。

品性のある美しく甘い声にとっても後々まで忘れられない程でした。一層、ファンになりましたの。

生野 智子

感謝します

カンパ、切手、冊子、バザー用の品(石鹼・タオル・シート・鍋・食器・ガラス食器・カバン、袋物・食品・飲料水・雑貨・傘等・その他)、手芸品、紙袋等のご寄贈

いろいろはがるた冊子等、サロングッズお買い上げありがとうございました。

お礼を申し上げます。

○七月のご支援・ご協力者 (敬称略)

赤松菊間、蘆刈逸子、石田 律、

石田花子、伊勢村和子、井上きみ子、

宇野、大塚一枝、岡 賀寿子、

小川 啓、岡本登志子、柿岡 緑、

木口久子、木寺ちよ子、木村圭子、

木村峰子、蔵田、桑原一郎、小西京子、

近藤千枝子、佐伯千恵子、阪口悦子、

定兼万代子、田中キクエ、田中フサエ、

田平雅之、大丸久美子、辻本輝子、

出口正敏、富田万里子、富田御喜代・

実幸、中岡久美子、中原友喜、秀 翠、

中村久子、永井美智子、永堀厚子、

西 和子、長谷川マキエ、林 三起子、

原田 仁、松田峰子、松森美智子、

松本克代、松本定子、丸山寿美子、

三木法子、八木千尋、柳生幸子、

山口豊子、倭 万也子、山野莊一、

山本篤江、山本敏子、山根匡子、

吉原和郎、若林幸子、和田保子

新刊のご紹介

林 三起子さんが、戦後五〇年を機に、

ご自身の小学校時代の思い出をまとめた、

「忘れ得ぬ日々―学童疎開を体験した少女

の記録」を、自費出版しました。

○お問い合わせ先 ☎(06)六八六一―三三七三





サロン隣組ニュース

■「サロン淀川」

○サロン淀川9月の出会い

日時・9月17日(日)

午後1時30分～3時30分

場所・淀川区民センター3階

[大阪市淀川区野中南2-1-5

☎06-304-9120]

内容・「街・人・夢」

～ポルトガルギターへのこだわり～

講師・ギタリスト 湯浅隆氏

会費・なし

問い合わせ先・☎06-306-2900

大阪市淀川区社会福祉協議会

ボランティア・ビューロー

■「ウイズ東淀川」

○「ウイズ東淀川の出会い」

日時・9月10日(日) 午後2時～4時

場所・東淀川会館3階(エレベータ・軒下1F前)

内容・「老人介護について」

講師・浜田早苗氏

会費・なし

問い合わせ先・電話06-340-3082

(鈴木昭二)

FAX06-320-4004

(宮脇均)

朗読テープのご案内

山本敏子さんのご協力で、<サロン・あべの>紙109号の録音テープが出来ました。バックナンバーは39号から、109号の分があります。50号は、90分と60分の二本のテープに、100号は、120分テープ二本にそれぞれ収録されています。又、絵本「未知の記憶」(作・絵=中川勝彦)、「ラジオたんぱ」6月4日(日)放送の<サロン・あべの>5月の出会い取材テープ(30分)もあります。

いずれもご希望の方には、ダビングをしますので、富田までお申し出下さい。

(☎06-691-1028)



第52回国民体育大会
おおさか ふれ愛 夢づくり
なみはや国体



第33回全国身体障害者スポーツ大会
ふれ愛びっく大阪
ときめいて今 はばたいて未来

FROM EDITOR

編集後記

平成9年大阪で、第52回国民体育大会が、その後、第33回全国身体障害者スポーツ大会が開かれます。<サロン・あべの>はこの「なみはや国体」と「ふれ愛びっく大阪」のPRに一役かおうと、大会のマスコット「モッピー」をサロン・あべの紙に掲載する旨、実行委員会に「マスコット等使用届出」を出しました。(石)

物品のご提供
お願いします。

みなさまの石けん1個、タオル1本、ハンカチ1枚…のご協力がくサロン・あべの>の活動資金の支えです。来年の夏も「さろん亭」に一層のご協力をお願いします。鬼に笑われようとも、いま、すぐご連絡ください。取りにお伺いします。

連絡先:

石田 律	阿倍野区昭和町3-11-13	TEL06-622-2018
辻本輝子	阿倍野区阪南町1-40-5	TEL06-621-2241
富田慶子	阿倍野区阪南町6-3-26	TEL06-691-1028
中原友喜	阿倍野区丸山通2-10-6	TEL06-652-1208
山村貴司	東住吉区南田辺5-1-18	TEL06-691-9071

＊みなさまにお願い。

鬼が笑う

編集人；サロン・あべの運営委員会・<サロン・あべの>Vol.110[95. 8.19 発行] 定価¥100.

代表；上平幸雄〒545 大阪市阿倍野区阪南町2-19-2-303 電話06-621-4365

連絡先；富田慶子〒545 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 電話06-691-1028

表題；井上憲一・筆 文中イラスト；石田美禰子

印刷；セルフ社〒546 大阪市東住吉区北田辺町4-23-2 ミスターDビル2F

TEL06-719-8212 FAX06-719-8213